

平成 30 年 10 月 3 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～東京港船上見学会を開催～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、9月28日（金）に、東京都港湾局および日本船長協会のご協力を得て、都内の小学5年生約80名を対象に、東京港船上見学会を開催しました。

当日は、社会科見学船「あじさい」に乗船し、海側から荷役中のコンテナ船や、港に停泊している自動車船・RORO船などを見ることができたほか、食料・衣料・日用雑貨・工業製品など生活に必要なものの多くが外国から船によって東京港へ運ばれていることの説明を受け、様々な種類の商船と東京港によって首都圏の生活・産業活動が支えられていることを学ぶことができました。



また、日本船長協会 中田常務理事より、港に停泊しているコンテナ船の概要や荷役方法、世界最大級のコンテナ船（全長約400m、20ftコンテナを2万本積むことができる）等の説明があり、普段の生活ではあまり接する機会がない商船を身近に感じることができました。

当協会は引き続き会員会社等と連携し、四面環海のわが国にとって欠かすことのできない海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

